

「スポーツ王国しずおかの復活」に向けた  
競技力の向上について

【答申】

平成29年4月

静岡県スポーツ推進審議会

## 目次

1	諮問内容・理由	1
2	競技力向上に向けた数値目標	1
3	本県の競技力の現状	2～5
	(1) 国民体育大会の成績	
	(2) 全国中学校体育大会及び全国高等学校総合体育大会の成績	
	(3) オリンピック	
	(4) パラリンピック	
4	現在の取組状況（静岡県スポーツ推進計画 平成26年7月策定の体系に基づく）	6～7
	(1) ジュニア選手の育成・強化	
	(2) トップアスリートの強化・活用	
	(3) 指導者の資質向上	
	(4) 地域スポーツ環境の整備、地域スポーツと企業スポーツとの連携	
5	競技力向上に向けた提言	8～11
	(1) 各年代に応じた育成・強化体制の構築	
	(2) 能力の高い指導者の育成・確保	
	(3) 競技団体、県・市町、教育機関、企業、プロチーム等の連携	

## 1 諮問内容・理由

### (1) 内容

「スポーツ王国しずおかの復活」に向けた競技力の向上について

### (2) 理由

本県は、世界水準の魅力を活かし、富国有徳の理想郷「世界にはばたく“ふじのくに”」を目指して、世界にはばたく三つの戦略のひとつとして、スポーツを通じた交流の拡大とスポーツ王国しずおかの復活を目指している。このため、東京オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップを契機とした国内外との交流拡大、地域におけるスポーツ活動の機会拡大とともに、国民体育大会の総合順位8位以内を数値目標とした競技力の向上に取り組んでいる。

本審議会には、「スポーツ王国しずおかの復活に向けた競技力の向上」に向けた課題解決について、審議をお願いした。

## 2 競技力向上に向けた数値目標

静岡県総合計画後期アクションプラン（目標年度平成29年度）

- ・国民体育大会における総合順位8位以内（平成28年度：16位）
- ・全国高等学校体育大会及び全国中学校体育大会における入賞（8位以内）数110以上（平成28年度：79）

### 3 本県の競技力の現状

#### (1) 国民体育大会の成績

##### ア 総合順位

- ・過去10年で最も高い順位が平成24年の14位、最も低い順位が平成26年の26位。本年は16位。

##### イ 競技得点

- ・団体競技は、平成25年が12.5点、翌26年が10.0点と著しく低かったが、本年は223.5点と過去10年で最も高くなっている。
- ・個人競技は、平成19年が最も高く、若干の変動はあるものの得点変化は少ない。
- ・成年種別の成績は、本年が最も高い。プロ・企業チームの活躍が要因の一つと考えられる。
- ・少年種別の成績は、本年が最も低い。競技得点に占める比率が最も小さい年となった。
- ・成年男子は、本年、過去10年で2番目に高い得点となった。少年男子は昨年の得点から少し上昇したが、平成24年の6割弱の得点に止まっている。
- ・成年女子は、本年が最も高い得点となったが、少年女子は過去10年で最も低かった。

#### 【団体・個人、成年・少年別】

区分	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	秋田	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手
団体	147.5 (19.9)	126.5 (19.0)	82.5 (13.1)	169.0 (25.3)	123.0 (22.0)	131.5 (18.7)	12.5 (2.2)	10.0 (1.9)	105.0 (17.1)	223.5 (32.2)
個人	592.0 (80.1)	538.0 (81.0)	546.5 (86.9)	498.5 (74.7)	436.0 (78.0)	571.5 (81.3)	556.2 (97.8)	507.0 (98.1)	510.5 (82.9)	470.0 (67.8)
成年	450.0 (60.9)	388.5 (58.5)	327.5 (52.1)	293.5 (44.0)	267.0 (47.8)	251.5 (35.8)	267.7 (47.1)	243.5 (47.1)	329.5 (53.5)	461.5 (66.5)
少年	289.5 (39.1)	276.0 (41.5)	301.5 (47.9)	374.0 (56.0)	292.0 (52.2)	451.5 (64.2)	301.0 (52.9)	273.5 (52.9)	286.0 (46.5)	232.0 (33.5)
得点	739.5	664.5	629.0	667.5	559.0	703.0	568.7	517.0	615.5	693.5
順位	15位	19位	21位	17位	22位	14位	20位	26位	20位	16位

[単位：点、(%)]

#### 【男女別】

区分	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	秋田	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手
成男	306.0	227.0	188.5	133.5	125.0	112.0	146.25	138.5	160.5	291.0
少男	149.5	206.0	181.5	233.5	170.5	286.5	206.0	152.0	144.5	164.0
成女	144.0	161.5	139.0	160.0	142.0	139.5	121.5	105.0	169.0	170.5
少女	140.0	70.0	120.0	140.5	121.5	165.0	95.0	121.5	141.5	68.0

[単位：点]

※ 太枠は過去10年で最高点、○囲みは過去10年で最低点。得点は、競技得点のみ。

## (2) 全国中学校体育大会及び全国高等学校総合体育大会の成績

### ア 両大会の入賞数

- ・目標の110については、達成されていない。
- ・過去10年で最も多い入賞数は平成25年の103。入賞数が最も少ないのは、平成27年の74。

年度 大会名	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
全国中学校体育大会	20	36	35	36	19	33	24	29	30	28
全国高等学校総合体育大会	55	49	48	59	63	54	79	51	44	51
計	75	85	83	95	82	87	103	80	74	79

※太枠は過去10年で最高、○囲みは過去10年で最低。 [単位：入賞者数]

### イ 全国中学校体育大会の種目別入賞数

- ・過去10年で最も多い入賞数は平成20年と平成22年の36。陸上競技及び水泳といった個人競技の入賞数がともに多いことが特徴。
- ・過去10年で一度も入賞がなかった競技が2種目（バレーボール、ハンドボール）ある。

種目別入賞数の年度別推移（8位まで）

年度 種目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
陸上競技	6	13	14	11	6	16	4	9	7	6
体操	3	3	5	9	5	3	2	7	7	7
水泳	4	8	5	10	2	5	10	6	10	8
柔道	3	7	6	3	1	3	3	2	2	4
バドミントン	—	0	—	0	0	1	0	—	0	0
剣道	1	0	1	0	1	0	2	1	1	0
ソフトテニス	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
ソフトボール	0	—	0	0	0	1	0	0	0	—
バスケットボール	1	1	1	0	2	2	1	1	1	0
サッカー	0	2	2	1	0	1	1	0	1	0
軟式野球	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1
バレーボール	—	0	0	—	0	0	0	0	0	0
卓球	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
相撲	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0
ハンドボール	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	20	36	35	36	19	33	24	29	30	28
入賞種目数	8	8	8	7	8	9	8	9	8	7

※太枠は過去10年で最高 [単位：入賞者数]

### ウ 全国高等学校総合体育大会の種目別入賞数

- ・過去 10 年で最も多い入賞数は平成 25 年の 79。陸上競技、体操・新体操での入賞数が過去 10 年で最も多い年である。特に陸上競技の入賞数が 20 を超えたのはこの年のみ。
- ・過去 10 年で一度も入賞がなかった競技が 3 種目（パレーボール、バドミントン、なぎなた）ある。
- ・平成 25 年の入賞数が最も多い要因として、平成 22 年の全国中学校体育大会において活躍した中学生の選手が 3 年経過して活躍したことが考えられる。

種目 \ 年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
陸上競技	19	16	9	12	17	15	29	13	10	11
水 泳	8	8	13	11	18	7	7	8	8	7
ウエイトリフティング							2			
空手道	6	2	4	7	3	5	6	7	4	7
ヨット	1	1								
自転車			1	4	3	2		3	2	4
レスリング	1	4	4	7			5	3	3	5
ボート	2	2	4	3	3	1	2	3	2	3
バスケットボール	1	1	1		1	1	3			
フェンシング	2	2	1		1		1		1	
登 山	1	1	2	3	2	2	2	2	1	1
テニス	2	1	1	1		1	3	1		1
体操・新体操	3	3		3	5	5	9	4		
剣 道		2		1	1				1	
弓 道	1		1			2	1		3	1
サッカー					1	2		1		2
柔 道	2	1	4	4	2	5	4	3	3	3
相 撲							2	1	1	
ソフトボール			1	1	1				1	1
バレーボール										
ソフトテニス			2							
ボクシング	3	4			2	1		1	1	
アーチェリー	1	1			3	4	1		1	3
ホッケー						1				
卓 球	1			1						
バドミントン										
ハンドボール	1									
なぎなた										
カヌー				1			2			
少林寺拳法								1	2	2
合計	55	49	48	59	63	54	79	51	44	51
入賞種目数	17	15	14	14	15	15	16	14	16	14

※太枠は過去 10 年で最高 [単位：入賞者数]

### (3) オリンピック

2000年以降のオリンピック出場本県関係選手数

開催年	開催地	人数	出場競技(人数)
2016	リオデジャネイロ	21	陸上競技(8) 水泳(3) セーリング(3) 卓球(2) バスケットボール(2) サッカー(1) 射撃(1) 自転車競技(1)
2014	ソチ(冬季)	2	スケート・ショートトラック(2)
2012	ロンドン	14	陸上競技(6) 水泳(2) サッカー(1) レスリング(1) 卓球(1) 近代五種(1) カヌー(1) テコンドー(1)
2010	バンクーバー(冬季)	2	スケート・ショートトラック(1) スケルトン(1)
2008	北京	14	サッカー(4) 水泳(3) 陸上競技(2) バレーボール(2) レスリング(1) 卓球(1) 近代五種(1)
2004	アテネ	13	サッカー(3) バスケットボール(2) 陸上競技(2) 体操(1) バレーボール(1) ソフトボール(1) ボート(1) 馬術(1) ウエイトリフティング(1)
2000	シドニー	5	サッカー(3) 野球(1) 射撃(1)

### (4) パラリンピック

2000年以降のパラリンピック出場本県関係選手数

開催年	開催地	人数	出場競技(人数)
2016	リオデジャネイロ	12	陸上競技(5) 水泳(1) ボッチャ(1) 自転車競技(1) 柔道(1) 車いすバスケットボール(1) 車いすテニス(1) ウィルチェアラグビー(1)
2012	ロンドン	14	陸上競技(4) 水泳(3) ボッチャ(1) 自転車競技(1) 柔道(1) 馬術(1) 車いすバスケットボール(1) 車いすテニス(1) ウィルチェアラグビー(1)
2010	バンクーバー(冬季)	2	アイススレッジホッケー(1) アルペンスキー(1)
2006	トリノ(冬季)	1	アイススレッジホッケー(1)
2008	北京	10	水泳(3) 陸上競技(2) 自転車競技(1) 柔道(1) 馬術(1) 車いすバスケットボール(1) 車いすテニス(1)
2004	アテネ	3	水泳(3)
2002	ソルトレーク(冬季)	1	アイススレッジホッケー(1)
2000	シドニー	2	水泳(1) 柔道(1)

#### 4 現在の取組状況（静岡県スポーツ推進計画 平成26年7月策定の体系に基づく）

##### (1) ジュニア選手の育成・強化

###### ア 学校や地域に各分野のスペシャリストを派遣

- ◇ジュニア世代の可能性発見のための体験教室の実施等
- ◇トップアスリート派遣による中学生選手の育成指導を実施
- ◇希望する運動部がない生徒を地域スポーツクラブで専門的に指導
- ◇学校、地域スポーツの指導者不足解消のためのスポーツ人材バンクを構築
- ◇学校の運動部活動等へ外部指導者を派遣

###### イ 発達段階に応じた育成・強化

- ◇ジュニア世代の可能性発見のための体験教室の実施等（再掲）
- ◇競技団体による競技特性に合わせたジュニアの育成・強化
- ◇国際大会開催等によるサッカーのジュニア世代等の競技力向上

###### ウ 多くの競技を体験し選択できる機会の創出

- ◇ジュニア世代の可能性発見のための体験教室の実施等（再掲）
- ◇希望する運動部がない生徒を地域スポーツクラブで専門的に指導（再掲）

###### エ 強化活動の場である運動部活動の計画的な強化支援

- ◇競技団体による競技特性に合わせたジュニアの育成・強化（再掲）
- ◇中学・高校の運動部活動への強化費の支援
- ◇全国大会出場選手候補選手の強化事業に対する支援

###### オ トレーニング施設などの環境整備

- ◇ランニング動作改善のためのハイテクマシンの活用

###### カ スポーツ医・科学の活用の啓発、スポーツ事故防止及びスポーツ障害予防・早期発見

- ◇国体出場選手のメディカルチェック、フィジカルチェック等

##### (2) トップアスリートの強化・活用

###### ア 世界に羽ばたく可能性のあるトップアスリートの育成

- ◇東京オリンピックに出場が期待される指定選手への強化費の支援
- ◇国体に向けた強化合宿、遠征等に対する支援
- ◇ジュニア世代の可能性発見のための体験教室の実施等（再掲）
- ◇競技団体による競技特性に合わせたジュニアの育成・強化（再掲）
- ◇国際大会開催等によるサッカーのジュニア世代等の競技力向上（再掲）
- ◇東京パラリンピックに出場が期待される指定選手への支援

###### イ 本県関係のトップアスリート等を指導者として活用

- ◇トップアスリート派遣による中学生選手の育成指導を実施（再掲）

###### ウ スポーツ医・科学の活用と競技関係者へのフィードバック

- ◇国体出場選手のメディカルチェック、フィジカルチェック等（再掲）
- ◇ランニング動作改善のためのハイテクマシンの活用（再掲）

## エ 競技性の高い障害者スポーツの支援

- ◇東京パラリンピックに出場が期待される指定選手への支援（再掲）
- ◇パラリンピック競技体験フォーラム等の開催

## (3) 指導者の資質向上

### ア 上級コーチ等の指導者資格取得や専門研修会参加への支援

- ◇資格取得のための講習会の参加支援、専門研修会の実施等

### イ 心身の発達段階に配慮できる指導者の養成による継続的な指導体制を構築

- ◇資格取得のための講習会の参加支援、専門研修会の実施等（再掲）
- ◇中学・高校指導者に対しトレーニングの科学的理論等の講習会を実施

### ウ 障害者スポーツの理解に向けた研修会等の開催、競技性の高い障害者スポーツ指導者を養成

- ◇（公財）静岡県障害者スポーツ協会による指導者の養成等

### エ 女性スポーツ支援の観点から、女性のスポーツ指導者の積極的な活用

- ◇外部指導者講習会において、女性スポーツに特化した内容で研修会を実施

## (4) 地域スポーツ環境の整備、地域スポーツと企業スポーツとの連携

### ア 地域において次世代アスリートを発掘・育成する体制の整備

- ◇ジュニア世代の可能性発見のための体験教室の実施等（再掲）

### イ トップアスリート等の活用により地域スポーツクラブや学校体育活動を支援

- ◇トップアスリート派遣による中学生選手の育成指導を実施（再掲）
- ◇希望する運動部がない生徒を地域スポーツクラブで専門的に指導（再掲）
- ◇学校の運動部活動等へ地域の外部指導者を派遣

### ウ パラリンピック出場者等が参加する講習会等の開催

- ◇パラリンピック競技体験フォーラム等の開催（再掲）

### エ 地域と企業・大学の協働によるスポーツの振興、企業・大学が有するスポーツ施設や人材の活用の推進

- ◇希望する運動部がない生徒を地域スポーツクラブで専門的に指導（再掲）

### オ スポーツ産業の振興

- ◇産学民官で構成するスポーツ産業振興協議会をプラットフォームとした新たなスポーツ関連ビジネスの創出

## 5 競技力向上に向けた提言

### (1) 各年代に応じた育成・強化体制の構築

#### ア 幼児期・小学校低学年

##### <スポーツに取り組むきっかけづくり>

○県・市町は、親子運動遊びプログラムやニュースポーツ等、様々な遊びを体験する機会をつくる。

○県・市町は、トップアスリート等と身近に触れ合うイベント等を実施する。

○幼稚園・保育園や小学校単位で地元のプロスポーツチーム等を応援する取組を進める。

##### <児童の体力向上>

○体力アップコンテストなど、園内・学校内で、楽しみながら運動に触れることができる取組を推進する。

##### <障害のある子供たちがスポーツに触れる機会の創出>

○アダプテッド・スポーツ※1などを通じた特別支援学校と小学校との交流等により、健常者と障害のある子供たちが共に遊び、スポーツを楽しむ機会をつくる。

○特別支援学校等でパラアスリートのデモンストレーションなどを行い、障害のある子供たちが障害者スポーツに興味を持つきっかけづくりを行う。

※1「アダプテッド・スポーツ」とは、心身に障害のある人や、高齢者・子供などが参加・競技できるように、ルールや用具などを適合させたスポーツの総称。(デジタル大辞泉から引用)

#### イ 小学校中高学年・中学生期

##### <多様な競技を経験する機会の創出>

○少年団活動や部活動が少ないスポーツ（いわゆるマイナースポーツ）について、県・市町と競技団体が連携して体験教室を実施する。

○県・市町は、各競技団体が実施するトレセン方式、強化拠点方式等による選手育成に対する支援を強化する。

○各市町がマイナースポーツを「我がまちのスポーツ」として、集中的な振興に取り組む。

##### <スポーツへの取組の持続化>

○県・市町は、競技団体が行う国際競技大会など高水準の競技を観戦する機会の創出やトップアスリートと交流できるイベント等の実施を推進する。

○県・県教育委員会及び県体育協会は相互に連携し、女子児童・生徒が、成長するに従ってスポーツに取り組まなくなる原因の分析を進める。

○女子の競技力の基礎となる体力の向上を図るため、学校の授業や課外活動等でダンス等気軽に取り組める運動の促進を図る。

○県・市町は、地域に潜在する女性指導者を活用する仕組みを作る。

<競技の特性に応じた多様な育成体制の構築>

○中学校の運動部活動について、教員の適材配置を図るとともに、外部の専門性を持つ人材を部活動指導員として活用する。

○競技人口が少ない競技については、競技団体が、民間の人材や中学校の部活動指導者の協力を得て、部活動に限らない中高生期一貫型の育成の仕組みを作る。

○各市町は、競技団体が行う中高生期一貫型の育成事業に対して、練習場所の提供等の支援を行う。

○ボート、ヨット、カヌーなど練習場所が限定される競技は、県・市町が練習環境の確保を支援する。

<障害のある子供たちが競技に取り組むきっかけづくり>

○特別支援学校でパラアスリートのデモンストレーションなどを行い、パラリンピック競技等に取り組むきっかけづくりを行う。

○特別支援学校の設備や用具の整備など練習環境づくりを推進する。

ウ 高校生期

<競技の特性に応じた強化・育成体制の充実>

○部活動の強化拠点となる学校を指定し、専門性を持つ優秀な指導教員を配置する。

○専門性を持つ教員の配置が難しい場合は、外部人材による部活動指導員を活用する。

○強化拠点校の練習施設・設備・用具の充実を図る。

○高校生期の女子部活動を活性化するため、女性の指導教員の増加を図る。

○県は、各競技団体が優れた資質を有する選手を、トレセン方式等において集中的に強化する取組に対する支援を強化する。

○競技人口が少ない競技については、競技団体が、民間の人材や高校の部活動指導者の協力を得て部活動に限らない中高生期一貫型の育成の仕組みを作る。

○県・市町は、競技団体が行う中高生期一貫型の育成事業に対して、練習場所の提供等の支援を行う。

○県・市町は、様々な競技のトップレベルの試合を観戦する機会の提供やトップアスリートの技術力を体感できる交流会等を行う。

○県は、競技団体が行うジュニア期の海外交流を促進する。

<意欲を持つジュニアパラアスリートの育成>

○特別支援学校等で、体育や運動部活動にパラリンピック競技等を積極的に取り入れる。

○パラリンピック競技等のデモンストレーションなどにより、生徒がパラアスリートと交流し、指導を受ける機会を作る。

○特別支援学校の設備や用具の整備など練習環境づくりを推進する。(再掲)

## エ 大学生期・成年期

<本県出身の優秀なアスリートへの支援>

○県は、競技団体が選抜する本県出身の優秀なアスリートに対する支援を強化する。

<地域スポーツとしての競技力の向上>

○各市町は、「我がまちのスポーツ」として地域のアイデンティティとなるスポーツを定め、育成・強化の体制や練習環境の充実を図る。

○各市町は、「我がまちのスポーツ」とする競技のトップレベルのチームを誘致し、その競技を地域ぐるみで振興する。

○県は、商工団体や企業等と連携し、JOCアスナビ事業※2静岡版の実施など、優秀なアスリートの県内企業の就職やキャリア形成を支援する。

<障害者アスリートの活動支援>

○県は、県障害者スポーツ指導者協議会等の選考委員会が選抜する優秀なパラアスリートに対する支援を強化する。

○県は、商工団体や企業等と連携し、JOCアスナビ事業※2静岡版の実施など、優秀なパラアスリートの県内企業の就職やキャリア形成を支援する。

○公共スポーツ施設のバリアフリー化や、練習利用への配慮など障害者スポーツの活動場所の確保を県、市町が支援する。

※2「アスナビ」(トップアスリート就職支援ナビゲーション)事業とは、企業と現役トップアスリートをマッチングする、JOCの就職支援制度。安心して競技に取り組める環境を望むトップアスリートと、彼らを採用し応援することで、社内に新たな活力が生まれることなどを期待する企業との間に、Win-Winの関係を築いていくことを目的にしている。サービスは無料である。(公益財団法人日本オリンピック委員会 HP から引用)

## (2) 能力の高い指導者の育成・確保

### <総合的な知見を持った指導者の育成>

○県は、県体育協会と連携し、ジュニア世代特有のメンタルや栄養学、スポーツ障害予防、安全対策、保護者との連携等に関する指導者研修の充実を図る。

○県は、県体育協会と連携し、優れた指導の手引きの作成、著名な講師の定期的な招聘、情報交換できるグループワークを行うなど、指導者研修の充実を図る。

○県は、県体育協会と連携し、女性指導者を対象とした研修を推進し、女性指導者の充実を図る。

### <各競技における専門性の高い指導者の育成・確保>

○スポーツ人材バンクの活用やプロチーム、企業チームの協力により、外部人材を生かして、多くの競技でジュニア期からの一貫した指導体制を整備する。

○県は、企業と連携し、競技者のセカンドキャリアとして、コーチや専門スタッフとしてのキャリア形成を支援する。

## (3) 競技団体、県・市町、教育機関、企業・プロチーム等の連携

○県・県教育委員会及び県体育協会は、相互に連携して、定期的に各競技の競技力の現状分析・評価を行う。

○県・県教育委員会及び県体育協会は、相互に連携して、各競技団体における競技力向上の取組を積極的に支援する。

○県は、企業・プロチーム等との連携の仕組みを作り、本県ジュニア世代の競技力の向上を支援する取組を推進する。

○県は、市町、教育機関と連携し、競技力の向上対策を担える総合型地域スポーツクラブの育成を支援する。